

数名で砂場で山をつくっていると、急に壊したくなったのか、A児が手で山の上の方の砂を自分の足の上に集めて崩し始めました。他児がA児の行動を見て突然のことに驚いていましたが、A児は「足、ない!」と言います。砂で足が見えなくなったことを、まるでマジックで消したかのようなドヤ顔で言うA児に保育者が「ほんまや!」と言うと、他の子は「えー!」「隠れちゃった!」「(私の足にも)かけて」と言って、自分の足や手の上に砂をのせ始めました。「気持ちいい〜」「冷たい!」「重い!」など言いながら、砂の感触を肌で感じ、思い思いに言葉にする子ども達でした。



保育者の思い

- ・水や砂、泥などに存分に触れて遊ぶことを楽しんでほしいです。
- ・「服が汚れた」「手が汚れた」と汚れることに慎重だった子ども達が、「見て〜ドロドロ〜!」と手を見せながら喜んで砂に存分に触れて遊ぶ姿を見て嬉しく思いました。

子どもの育ちや学び

- ・裸足になって園庭に出て、手や足で砂の感触を存分に味わっています。
- ・「冷たい」「重い」など感じたことを言葉で伝えようとしています。また、「靴を履いてる」と見立てる姿もあります。
- ・友達が遊ぶ様子を見て、興味をもったり、真似して遊んだりしています。